

【翻訳】

イ・ワヤン・スクラタ (I.Wayan Skurata) 編、2007年.

## プダワ村のタタ・ルンゲー

山川 基

イ・ワヤン・サディヤナ (I.Wayan Sadyana)  
：ガネーシャ教育大学) 訳

### 1.1. 背景

プダワ村は、ブレレン県のバンジャールにある古い村落の一つで、周辺にティガワサ (Tigawasa)、シダタパ (Sidatapa)、チェンパガ (Cempaga)、バニユスリ (Banyuseri) という村が隣接している。下位村落のジジット (Jijit) とルトゥルンカウ (Letolunkau) では遺跡が発見された。これは、はるか昔の巨石時代にすでにプダワに人が住んでいたという証であると言えよう。そしてまた、我々はトゥラガ・ワジャ寺院 (Telaga Waja) 中のプリンギー・タクスーとプリンギーとして知られている石で造られた動物の供物台をいくつか発見している。また、ガイガン (Gaigan) すなわちタクスーの力を表象している石の山もある。

初期のプダワ村は、山から来た馬鹿な人たち〔山猿〕(Gunung Tangle) として知られてきたが、〔別言すれば〕これは村人の素朴な特徴を示している。そしてまた、肥えた土地 (Gunung Sari) として知られていることは、砂糖椰子で知られるプダワの土地の豊かさを示している。ジュロ・プニヤリカン・キンタマニー (Jro Penyarikan Kintamani) が持っているロンタール〔クディサン村に保管されている〕に依れば、プダワという語は、パンダワ (Pandawa) という語に由来している。パンダワという語は、プラ・ダラムにおいては如何なる武器に対しても不死身の力を持つ聖水として知られているティルタ・ビマ (Tirta Bima) に関係している。プダワという語は、最初はダラム・サムプランガン (Delem Samprangan) 王国の時代のパセック・カユ・スルム (Pasek Kayu Selem) の年代記に見られる。この年代記に依れば、プダワとシダタパの人はトゥムブラヤン・バトゥール (Tempurayang Batur) に集まっていた。

プダワという語はパンジャック・デワ (神の召使) という意味だという説もある。その他の解釈として、プダワという語は、パダ (Pada) 〔「同じ」という意味〕とワング (Wang) 〔「人間」という意味〕に由来しているというものもある。〔そしてここには〕普通のバリ人におけるようなカースト (Kasta) ないし「ワンサ」(Wangsa) 〔バリ語でカーストのことをワンサと言うが、本来はクランに基づいた階層という意味〕のような社会階層はない。

上に記したように、プダワはバリ・アガ村の一つである。〔祖先の〕起源 (Kawitan) に関係しているが、今日ではプダワの人々の真の起源を探ることは難しい〔1960年に人々のクランが分かるようになった、という〕。すべての者が、ジャワからやって来たパセック (Pasek) ないしはアリヤ (Arya) という大家族に関係している。

プダワの人々は、最初の先祖はダナウ・タムプリングアン (Danau Tamblingan) 地域から来たと信じている。そして、外からの移住者と混交してそこに留まったのであった。プダワは〔標高〕約450メートルから800メートルの小高い丘に位置し、ほとんどの者が農民である。

プダワ村は、5つのバンジャール (サンバンガン) ——サンバンガン・ナワン (Nawan)、サンバンガン・マニス (Manis)、サンバンガン・ポン (Pon)、サンバンガン・ワゲ (Wage)、サンバンガン・パイン (Paing) ——に分かれ、それぞれのサンバンガン長に導かれている。

## 1.2. 規定

一般的にバリにおいては、村ないしはブンデサ (Bendesa) のクリアン (Kelian)〔クラマ・デサのリーダーだが村長ではない〕が村の制度を指導するが、プダワ村では、タタ・ルングーの規定に従ってプングルー・デサ (Pengulu Desa) が指導する。タタ・ルングー (Tata Lungguh) は、指図を意味するタタ (Tata) という語に由来する。そして、ルングー (Lungguh) は地位を意味する。それゆえ、タタ・ルングーとは、結婚した後のクラマ・デサにおける地位を意味する。昔は、既婚者の資料は、ガンティー (Ganti) という木の板に記されたが、今ではガンティーは村寺で保管されている。

昔クラマ・デサは次の3つ——クラマ・ナルupp (Krama Ngarep)、クラマ・サムピンガン (Krama Sampingan) とクラマ・バキー (Krama Baki) ——に分かれていた。時代の変化と人口移動によって、プダワに来た新しい人たちをクラマ・タミュー (Krama Tamiu) という。

クラマ・ナルupp (Krama Ngarep) は、クラマ (Krama) とナルupp (Ngarep) という語に由来する。クラマは成員を意味し、ナルuppは一番大切な役割のある人々を意味する。したがって、このクラマ・ナルuppという語は、村の優れた者たちを意味する。この点で彼らの権利と義務は突出しているのである。クラマ・ナルuppになれる人は、子供のいない夫婦、子供がまだ結婚していない夫婦、独身の息子及び娘を亡くした夫婦である。

クラマ・サムピンガンのクラマは〔既述したように〕成員を意味する。そして、サムピンガンは端を意味する。それゆえ、クラマ・サムピンガンは、村人の義務と権利にほとんど関係しないところに住んでいる人たちのことである。

最後のクラマ・バキーは、息子や娘がすべて結婚した成員をいう。バキーとは、再生産及び生理の停止の状態をいう。

クラマ・ナルuppは、タタ・ルンゲーにおいては次のような地位——プングル（Penglu）、プングータン（Pengectan）、プニャリカン（Penyarikan）、プヌグラン（Penugelan）とプングリサン（Pengrisan）——に順じてリストにあげられている。

## 第2章 タタ・ルンゲーにおけるクラマ・ナルuppの地位

### 2.1. プングル・デサ（Pengulu Desa）

プングル・デサのプングル（Pengulu）という語は、長、リーダー、上位の方向を意味するプングル（=ウル Ulu）に由来する。それゆえ、プングル・デサとは、村のリーダーを意味する。このことから、タタ・ルンゲーに記載されている最年長の人々を言う。プングル・デサないしはウル・デサと呼ばれているものには、トゥリ・ヒタ・カラナ（Tri Hita Karana）という観念——パラヒャンガン（Parahyangan）、パウォンガン（Pawongan）とプレマハン（Peleemahan）——に関連した村全体の活動や指図をするという重要な義務がある。パンチャワラ（Pancawara）〔バリカレンダーの日の名前〕を使用するウル・デサという名前には以下の者が含まれる。すなわち、ダネ・ナワン（Dane Nawan）、ダネ・ワゲ（Dane Wage）、ダネ・ポン（Dane Pon）、ダネ・パイン（Dane Paing）とダネ・マニス（Dane Manis）。ナワンないしはクリウォンは中心にいてその他の下位の者をコントロールする。

#### 2.1.1. ウル・デサ・ダネ・ナワン

ダネ・ナワンは通常ナワンとだけ呼ばれるが、タタ・ルンゲーの最高位である。ダネ・ナワンには以下の義務がある。

- ・特に儀式においては、村全体の仕事を指図すること。
- ・サムバンガンのマニスに村寺の清掃の指図をすること〔20年前からの義務であるが、それまではなかった〕。〔ダネ・ナワンは〕サムバンガンのブラジュルーに補佐される。
- ・最大の鐘（Gong）を管理すること。

上記の義務によってダネ・ナワンはクラマ・デサの通常の義務から解放され、慣習法の履行を判断出来る地位を表すクチェン（Keceng）という名の供物（Banten Karna）を貰える。

#### 2.1.2 ウル・デサ・マニス（ダネ・マニス）

ダネ・マニスはタタ・ルンゲーの第2番目の地位である。彼には以下の義務がある。

- ・特に儀式においては、村全体の仕事の指図をすること。ダネ・ナワンを補佐すること。
- ・村寺の維持と清掃についてサムバンガン・マニスに指図すること。
- ・ほかのより小さな鐘を管理すること。

ダネ・マニス、クラマ・デサの通常の義務から幾分解放され、トゥグラン (Tugelan)、という名の供物を貰える。

#### 2.1.3. ウル・デサ・パイン (ダネ・パイン)

ダネ・パインは、タタ・ルングーの第3番目の地位である。彼には、以下の義務がある。

- ・寺ないしはプリンギーの調査及び管理。
- ・村財産の記載と一覧表。
- ・トゥラガ・ワジャ寺院の維持と清掃についてサンバンガン・パインに指図すること。
- ・クムプル [一種の鐘の名前] の管理。

ダネ・パインは、またトゥグランという名の供物を貰える。上記の3つの地位の間で変更の必要が生じた時は、ムダップダップ (mdabdab) [特殊目的のための会議] が開かれることになる。

#### 2.1.4. ウル・デサ・ボン (デサ・ボン)

ダネ・ボンは、タタ・ルングーの第4番目の地位である。彼には、以下の義務がある。

- ・儀式の時に必要なものすべての準備と購入。
- ・ムンドウック・マデッグ (Menduk Madeg) 寺院の維持と清掃についてサンバンガン・ダネ・ボンに指図すること。
- ・ブンデ (Bunde) [その他の小さい鐘] の管理。

ダネ・ボンは、またアイサン (aisan) [豚のわき肉で出来たもの] という名の供物を貰える。

#### 2.1.5. ウル・デサ・ワゲ (ダネ・ワゲ)

ダネ・ワゲは、タタ・ルングーの第5番目の地位である。彼もまた、クバヤン・プングータン [ブン・グータンのリーダー] と呼ばれ、以下の義務がある。

- ・結婚の金を受け取ること。
- ・サムバンガン・ワゲに、特に死者の寺 (タマン寺院) の維持と清掃の活動を指図すること。
- ・クバヤン・プングータン (Kebayan Pengectan) としてプングータンを指導しなければならないし、チェンチェン・ガンサ・ブサル (Cengceng Gangsa Besar) という名の鐘を管理しなければならない。

ダネ・ワゲは、チュコック (Cekok) という名の供物を貰える。

#### 2.1.6 ウル・ダネ・バアン (バアン)

ウル・ダネ・バアン (しばしばダネ・バアンと呼ばれる) はタタ・ルングーの6番目の地位である。ダネ・バアンとダネ・ワゲは、プングータンのレベルである。バ

アン (Baan) は、通常アシスタントである。既述した上記の5人が仕事の上で障害があった場合は、急遽その者の代行をすることになる。ダネ・バアンには以下の義務がある。

- ・ティルタ・パンゲントス (Tirta Pangentas) の金を管理すること (誰かが死んだ時は、その者の家族が、タマン寺で行われる聖水のための金ウアン・クパン (uang kepan) を払わねばならない)。
- ・トゥルナの作ったペンジョールをチェックすること。
- ・チェン・チェンと小さいガンサ (gangs) という鐘を管理すること。

ダネ・バアンは、チュリン (Celing) [豚の膝下の肉] という名の供物が貰える。

#### 2.1.7 ウル・ウドゥアン (Ulu Uduan)

ウル・ウドゥアンは、タタ・ルンゲーの7番目の地位である。ウル・ウドゥアンは4人で構成され、プンゲータンとも呼ばれる。彼らの義務は以下の通りである。

- ・主な義務は儀式の時の供物として肉を買うこと。
- ・もう一つの仕事は、プンゲータンとしての仕事である。
- ・7番目のウル・ウドゥアンはプンガン (Punggang) を管理すること、8番目の者はプンガー (Penengah) を管理すること、9番目の者はリオン (Riong) を管理すること、10番目の者はプヌラス (Penerus) を管理すること [これらはいずれガムランの道具]。

上記の10人は、通常のクラマ・デサが行う村の義務から若干解放されることもある。[しかし彼らのなかの] 1番から8番までの人は儀式の時踊らなければならない。だから彼らはパイグラン (Paigelan) と呼ばれる。彼らの踊るダンスは数種類ある。それらはマブアンブアング (Mabuanguangan)、ブラワンガン (Belawangan)、ナブヒン (Nabuhin) という名である。

#### 2.2. プンゲータン (Pengeetan)

プンゲータンは、タタ・ルンゲーの5番から16番の者をいう。プンゲータンの主な仕事は下のものである。

- ・儀式の時の豚の調達と調理。
- ・バンテン・カルナ (供物)
- ・11番から15番までのプンゲータンはトゥンバック [通常儀式の時使われる武器] を管理すること。

#### 2.3. プニャチャラン (Penyacaran)

タタ・ルンゲーの17番から30番までのものをプニャチャランという。プニャチャランは区分を意味するチャチャール (cacar) という語に由来し、プニャチャランは、通常儀式時にいくつかの仕事を分割したタタ・ルンゲーのグループのことである。

彼らの主な仕事は、次の通りである。

- ・グチー (guci) [儀式の時通常使われるトゥアックを入れる壺の名前] を管理すること。
- ・儀式時のカウェス (kawes) [椰子の葉で作られた供物入れにご飯、豚肉、ラワール——擦り下ろされたココナッツと豚の血を混ぜたもの——などが盛りつけされた供物の名前] やバンタン・サーサー [供物の名前] を作ること。

#### 2.4. プムンプナン (Pemumpunan)

タタ・ルンゲーに載っている31番から42番までの、12人のグループをプムンプナンという。プムンプナンは料理をするというプンブン (punpun) という語に由来する。かれらの主な仕事は、儀式の時料理をすることである。

#### 2.5. プヌグラン (Penugelan)

タタ・ルンゲーに載っている43番から、最後から13番までのグループをプヌグランという。プヌグランは、なにかを切ることを意味するトゥゲル (Tugel) という語に由来する。だから、ここでは、儀式時にバナナの葉を探したりカットしたりするグループのことをいう。プヌグランが行う仕事は以下の通りである。

- ・バンテン・サーサーを作ること。
- ・ココナッツをこすりとること。
- ・カウェスを作ること。
- ・儀式時に通常使われる数種類の葉を探し持ってくること。

#### 2.6. プミリタン (Pemiritan)

タタ・ルンゲーの最後の12人をプミリタンという。このグループの義務は以下の通りである。

- ・儀式の時豚を殺すこと。
- ・肉をきれいにすること。
- ・プミリタンの者は腸 [供物に使わない部分] を家に持ち帰ることが出来る。

上記のことから、我々は以下のように結論付けることができる。

1. タタ・ルンゲーに載っているものは、すべからくその地位に応じた特別の義務がある。だから、これ [ここの内容] は、クラマ・ナルuppそれ自体によって統御されているのである。
2. ウル・デサの役割は、村の活動全般の指図である。
3. タタ・ルンゲーのそれぞれのレヴェルの義務は、1つのレヴェルから他のレヴェルへの移行を通して、仕事の社会化を示している。クラマ・デサの成員は、プミリタンとして出発し、他のレヴェルへと上がっていく。
4. タタ・ルンゲーの中には調和ある良い関係が構築されてある。
5. ウル・デサの貰えるカルナは村の重要な地位を示している。
6. ゴンという道具はウル・デサの家で保管される。それは、新しい時代において村

を守るためのシンボルとなるものである。

## 2.7. 追加された集団

タタ・ルンゲーに記載された上記のほかに、プダワ村にはプラジュルー・アダット (Prajuru Adat)、プラジュルー・サムバンガン (Prajuru Sambangan)、スカー・ガムル (Sekaa Gamel)、スカー・トゥルナ-トゥルニ、プレマス (Premas) とバリアン・デサ / ウレム-ウレマン (Ulem-Uleman) という集団がある。

1. スカー・ガムルは、12人からなり、儀式の時鐘を打つ義務がある。
2. スカー・トゥルナ-トゥルニは、未婚の男女の集団からなる。スカー・ダー-トゥルナとも言われる。

トゥルナ [男性の未婚集団] の主な義務は次の通りである。

- 鐘を突くことが、タタ・ルンゲーのそれぞれのレヴェルでの役割である。
- ココナツの葉を探し持ってくること。
- プングルー、プレマスのためのヌンダング (Ngundang) [バリアン・デサを迎えに行くこと]
- ペンジョールを作ること。
- マクミット [儀式の時徹夜をすること]
- ムバリス (Mebaris)、マプトカン (Mapetokan)、ナブヒン (Nabuhin) など [を踊ること。いずれも踊りの名前]
- ムキドゥン (Mekidung) [聖歌を歌うこと]

ダアー (トゥルニ) [女性の未婚集団] の主な仕事

- ムクート (Mekeet)
- ヌドゥナン・プリランガンないしはムンダック
- マクミット (Makemit)
- ムタンダック (Metandak) [女性たちのために特別の聖歌を歌うこと]
- ムレジャン (Merejang) [ルジャンを踊ること]

3. プレマス、バリアンと ウレム-ウレマンは、一般のバリ同様、マンクーとしての義務がある。彼らは、ヒャン・ウィディ (太陽神) 及び村人すべての健康と繁栄を祈る時ウル・デサを補佐する。
4. プラジュルー・アダット (Prajuru Adat) / プラジュルー・サムバンガン (Prajuru Sambangan)

村のプラジュルーは村の管理と組織化のためにウル・デサを補佐し、サムバンガンのプラジュルーはバンジャール (サムバンガン) を管理するために補佐する。

5. サヤ / カシノマン (Saya/Kasinoman)

このグループは、二人からなり、15日ごとに交代する。彼らは儀式の時ウル・デサを補佐する。

6. ジュル・アラー (Juru Arah)

クラマ・デサの成員と接触する集団であるが、〔本来の〕村の活動ではない。  
この集団の数は必要に応じて決められる。

7. サンクトット (Sanket) ないしは村長

これは、現代の政治に関係している。クラマ・デサには村内で問題が生じた時  
法律的熟慮が求められる。

【解題に代えて】——山川記

先ずこの資料の编者イ・ワヤン・スクラタ (I Wayan Sukrata) 氏から翻訳の許可を  
いただいたことを記しておきたい。氏は、現在プダワ村の小学校でヒンズー教を教えて  
いる現役の教師であり、プダワ村のプラジュルーでもある。一言でいえば、この村の組  
織、宗教儀礼等について最も詳しい村落のリーダーの一人であり、村の歴史やクラマ・  
デサの組織のことを纏める事の出来る類いまれな人物である。今回のこの「プダワ村の  
タタ・ルンゲー」(Tata Lungguh Desa Pakraman Pedawa, 2007) (私家版) だけでなく、  
氏はすでに *Babad Arya Kenceng Tegeh Kori*, 2004 と *Kahyangan Dan Lelintih Nemu Gelang  
Desa Adat Pedawa*, 2004 (いずれも私家版) をもまとめている。ただ詳しいというだけ  
なら古老の中にもいるかもしれないが、彼の記述、説明を凌駕するものはおそらくいな  
いであろう。未翻訳の文献もプダワ村を理解する上で目を通しておかねばならないが、  
今回はそこまでは出来なかった。恐らく来年度には可能であろう。

さて、我々は、昨年の『就実論叢』第38号で「プダワ村の慣習法 (Awig-Awig)」を  
翻訳したが、今回のこの翻訳はプダワ村のクラマ・ナルuppの組織及びその地位と役割  
について触れたもので、この地の慣習法を理解する上で不可欠のものである。

組織とは、上になればなるほど権限が強い。だがその権限を支えているものは下位の  
者たちである。誰しもこの階梯を登って行き、クラマ・デサの長老となっていく。とり  
わけ宗教儀礼は、全村民にとって共通の地盤に立てる時である。別の言い方をすれば、  
宗教共同体としての体制を維持していくための人々の叡智がこの組織図に結実してい  
ると言っているのかもしれない。一つの理念を共有し、その理念を地位と役割との関係だ  
けでなく彼らの成長過程に反映させていく。結果として長老制へと進んでいかざるを得  
ないが、ここには現代人が失ってきた大切な一面があると言えるのではなからうか。

【翻訳上の留意点】

訳文の第一段階は、サディヤナがインドネシア語を英語訳した。第2段階は、それを  
山川が日本語訳した。ともかく読みやすい日本文になるよう心がけた。訳文中の〔 〕  
において、理解しやすいように用語の補足と内容の説明をしたが、特に内容説明に関し  
てはスクラタ氏から受けた説明に依拠していることを断っておきたい。本訳文に関す

る文責は、すべて山川にある。

【訂正】

昨年「プダワ村の慣習法 (Awig-Awig)」(『就実論叢』第38号)を翻訳したが、52条第2項についてスクラタ先生より以下のような指摘を受けた。訂正しておきたい。また、17条第3項について補足説明を受けたので記しておきたい。

1. 52条2項に書いている Pengambilan は結婚のこと關している言葉です。Pengambilan は “Ambil” という語からできた言葉で英語の「Take」に相当する。従って Pengambilan とは女の人を迎えに行くという意味になる。
2. Mebasang Medewa Saksi. Mebasang は「Bebas」という語からできた言葉です。「Bebas」は「free」(自由)と同じ意味です。Medewa は「Dewa」という語に由来し、「Dewa」は「神」という意味です。「Saksi」にはいろいろ意味があるが、ここでは「見守る」という言葉と同じ意味です。「Mebasang Madewa Saksi」は普通、「Pengambilan」の後にする Pedawa の結婚活動の順番です。父系制度のなごりと言ってもいいでしょう。花婿側は花嫁側のところ行って、関係者ともども結婚当事者を祝福します。その時 Ulu Desa と Krama Desa の長も証人として招待されます。このとき神の御加護を祈念するために簡単で小さなおそなえもの (Damar という) が用意される。「Mebasang Madewa Saksi」をしてからカップルは夫婦になります。
3. Sukrata 先生から Awig-awig 17条の3項のことについて説明を頂きました。そこには、「Prajuru Desa Pakraman miwah Prajuru Sambangan kadi ayat 2 nomor a, na, ca, pawos puniki yening lintang ring atengaa keh Prajuru」と書いてあります。つまり、プラジュルー・デサないしはプラジュルー・サンバンガンのメンバーの半分以上が何らかの理由で死んだときは、新メンバーを補充しなければならない、ということである。